

Toyota Municipal Museum of Art Press Release

豊田市美術館 プレスリリース

2022.3.18



Toyota
Municipal
Museum
of Art

豊田市美術館



交歓するモダン 機能と装飾のポリフォニー

Modern Synchronized and Stimulated Each Other
The Polyphony of Function and Decoration

2022年6月7日[火]—9月4日[日]

開館時間：10:00-17:30（入場は17:00まで）

休館日： 月曜日（7月18日、8月15日は開館）

主催： 豊田市美術館

共催： 中日新聞社 特別協力：東京国立近代美術館、東京藝術大学、ミサワホーム株式会社

協力： 日本航空、ヤマト運輸株式会社 助成：一般財団法人地域創造

観覧料： 一般1,400円[1,200円]／高校・大学生900円[700円]／中学生以下無料

*[]内は前売り券及び20名以上の団体料金。

*障がい者手帳をお持ちの方（介添者1名）、豊田市内在住又は在学の高校生及び豊田市内在住の75歳以上は無料（要証明）。

*その他、観覧料の減免対象者及び割引等については当館ウェブサイトをご確認いただくか、豊田市美術館へお問い合わせください。

*前売券：豊田市美術館（5月8日まで）、T-FACE B館2階インフォメーション（6月6日まで）

*感染症拡大防止のため会期、来館者の受入態勢等を変更する場合があります。当館ウェブサイトから最新情報をご確認ください。

開催趣旨

1910年代から30年代は、西欧を中心に日本を含む各地で、様々な「モダン」の形が現われた時代でした。

機能主義に基づく「モダニズム」は、いまだに当時の中心的な動向とみなされていますが、一方で、大衆消費社会が進展したこの時代は、常に新しくあるために装飾することに価値が置かれた、儚き「モダニティ」の時代でもありました。そしてこの対立的に捉えられてきた二つの「モダン」は、実際にはいくつもの「モダン」をうちに含み、それらは複雑に関係しながら濃密な時代を作り上げていました。

当時の作家たちは、時間差なく情報を共有し、国やジャンルを越えて同期し合い、その範囲は、絵画、彫刻から、家具、食器、洋服、さらにそれらを収める建築や都市まで、いわば、私たちの生活空間、身体活動全般におよんでいます。

ウィーン工房は、フランスのファッションデザイナー、ポール・ポワレと刺激し合い、一方で、建築家で室内装飾家のロベール・マレ＝ステヴァンなど同国のモダニストにも影響を与えました。その生活全般への眼差しはまた、日本で新しい生活様式を模索した森谷延雄や斎藤佳三らにも共有されるものです。同時主義絵画で知られるソニア・ドローネーはファッションの仕事に専心し、建築、家具デザインを手がけたルネ・エルブストらモダニストは都市を彩るショーウィンドウデザインに大きな関心を払いました。そして、ドイツのバウハウスでは女性作家が織物に新たな光を当て、また同校を離れた作家たちが、ブルク・ギービツヒェンシュタイン美術工芸学校を舞台に応用芸術教育に取り組むことになります。

1914年に勃発した人類史上初の世界大戦が象徴するように、この時代の最大の出来事は世界が一気に同期したということでした。その急速に変化する社会のなかで、作家たちがときに交わり、ポリフォニーのように共鳴しながら探求したいくつもの「モダン」の形を紹介します。

展示予定作品

約400点

＊会期中一部展示替えをします。

前期：7月24日〔日〕まで 後期：7月26日〔火〕から

展覧会のみどころ

◎バラバラにしか紹介されてこなかったモダンデザインと装飾芸術、ファッションを一堂に集め、その関わりに焦点を当てます。

◎第一次世界大戦後、応用芸術の分野で活躍した女性作家たちの作品に注目します。

＊ 1903年設立のウィーン工房は、初期の厳格でソリッドな表現にかわり、1910年代後半以降、女性作家たちによる愛らしくロマンティックな作品を次々に生み出しました。

＊ 1919年にドイツで設立されたバウハウスでは、織物工房にクラス分けされた女性作家たちが新素材も使いながら織物を追求し、金属工房では、マリアンネ・ブラントなど数少ない女性作家が、カラフルな色も使いながら魅力的な形態の作品を制作しました。

＊ 同時主義絵画で知られるソニア・ドローネーは、この時期ファッションに専心し、その制作が抽象絵画の理論を深めました。

◎モダンデザインは、デ・ステイルやバウハウスだけではありません。今後注目すべきモダンデザインの動向を取り上げます。

＊ バウハウスと同時期にドイツで応用芸術教育を実践したブルク・ギービツヒエンシュタイン美術工芸学校。同校には、バウハウスと袂を分かった作家たちが教員として多数着任し、より職人的な観点から実際の生活にふさわしい応用芸術が模索されました。

＊ フランスでは、モダンデザインを推し進めるために、1929年、ロベール・マレ＝ステヴァンらが中心となり、現代芸術家協会UAMが結成されました。ル・コルビュジエやシャルロット・ペリアンも含む同会メンバーは、ドイツでバウハウスが下火になっていく時期に、それと入れ替わるようにフランス独自のモダンデザインを展開していきます。

◎生き方、暮らし方のデザインとしての室内装飾、都市芸術に注目します。

装飾芸術家、デザイナーたちは、この頃から、ただ単体の家具調度をデザインするのではなく、部屋全体をいかに統一的にデザインするかを重視するようになります。それは、新しい時代にふさわしい生き方、暮らし方自体をデザインしようとしたからです。こうした考え方はさらに、都市全体の在り方も変えていきます。ファッションやその他全ての商品は、ただそれを着る人、使う人だけの問題ではなくなります。人々の消費意欲を促すショーウィンドウや広告デザイン、また新しいファッションに身を包んだ女性たちが、街の表情自体を作り変えていったのです。

こうした総合的な時代の変化を目に見える形で紹介します。

展示構成

1. モダニティの萌芽 大戦前夜

①ドイツ応用芸術とウィーン工房の展開



ブルーノ・パウル
ダイニングチェア
1908 年
織田コレクション、北海道東川町



コロマン・モーザー
アームチェア
1903 年頃
豊田市美術館

②ポワレとウィーン工房、フランスの新たなファッションの動向



ポール・ポワレ
デイ・ドレス「カザン」
1911-12 年
京都服飾文化研究財団

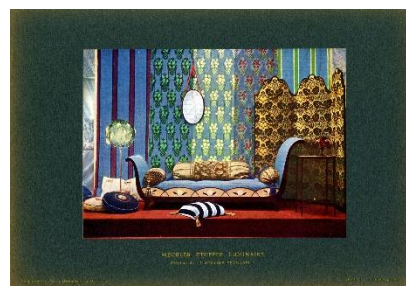


バラ畑
ポール・ポワレ／アトリエ・マルティエヌ
1912 年頃 装飾美術館、パリ

③フランス室内装飾への関心



フランシス・ジュールダン
ジョルジュ・ベッソン邸の肘掛椅子
制作年不詳
ポール・エリュアール歴史美術館



アトリエ・フランセ
家具・生地・照明『アール・エ・デコラシオン』
1914 年
豊田市美術館

2. モダニティの進展 大戦間の動向

①大戦間のウィーン工房 ペッヒエとファッション部門



ダゴベルト・ペッヒエ
タチジャコソウ（テキスタイルのデザイン）
制作年不詳
豊田市美術館



ダゴベルト・ペッヒエ
ネックバンド
1919 年頃
島根県立石見美術館

3. モダニティの隆盛とモダニズムの進展 大戦後-1925 年

①大戦後のウィーン工房 女性作家たちの活躍



フェリーチェ・リックス（上野リチ）／ウィーン工房
テキスタイル「クレムリン」
制作年不詳
島根県立石見美術館



ヨーゼフ・ホフマン
センターピース・ボウル
1924 年頃
個人蔵

②フランスのファッションと装飾芸術家の協働



ジャンヌ・ランヴァン
イヴニング・ドレス
1924 年
神戸ファッション美術館



ジャン・デュナン
バックル、コンパクト
1925 年頃
京都服飾文化研究財団

③フランスにおける室内装飾と都市芸術



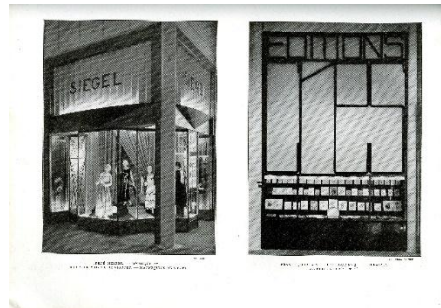
アンドレ・グルー（デザイン）、マリー・ローランサン（絵付）、アドルフ・シャノー（制作）
椅子
1924 年
東京都庭園美術館



フランシス・ジュールダン
ランプ
1920-21 年
ポール・エリュアール歴史美術館



ピエール・シャロー
フロア・スタンド
1923 年
国立工芸館



サロン・ドートンヌ都市芸術部門展示
『La Renaissance de l'art français et des industries de luxe』1925 年
豊田市美術館

④装飾と抽象



ソニア・ドロローネー
リズム
1915-1930 年
京都国立近代美術館



ソニア・ドロローネー
『ソニア・ドロローネー』
1925 年
島根県立石見美術館

⑤初期バウハウス



テオドール・ボークラー
蓋物
1923 年
宇都宮美術館

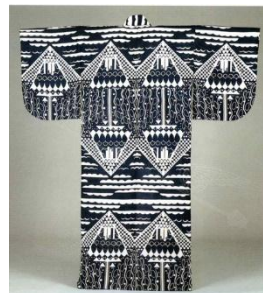


マルセル・ブロイヤー
肘掛け椅子
1923-24 年
国立工芸館

⑥日本における生活改善運動：森谷延雄、斎藤佳三たち



森谷延雄
「朱の食堂」の肘掛け椅子
1925 年（復元）
松戸市教育委員会



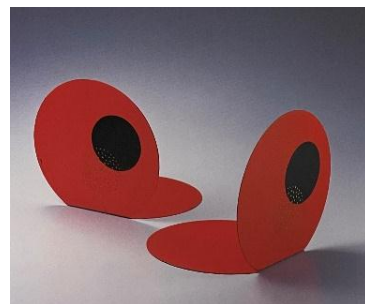
斎藤佳三
表現浴衣
1930 年頃
東京藝術大学大学美術館

4. モダニズムの隆盛と終焉

①デッサウ以降のバウハウス



グンタ・シュテルツル
テキスタイルのデザイン
1927 年
ミサワホーム株式会社



マリアンネ・ブランド
ブック・エンド
1930/32 年
宇都宮美術館



マルセル・ブロイヤー
ラウンジチェア B25
1928/29 年
宇都宮美術館

②モダニズムと袂を分かつ／ブルク・ギービッヒェンシュタイン美術学校と各地工芸学校



エーリッヒ・ディークマン
小椅子
1928 年頃 ミサワホーム株式会社



マルグリーテ・フリートレンダー＝ヴィルデンハイン
ハレ・ティー・セット
1930 年頃
ミサワホーム株式会社



不詳（ブルク・ギービッヒェンシュタイン美術工芸学校）
帯状織見本
1934 年頃
宇都宮美術館

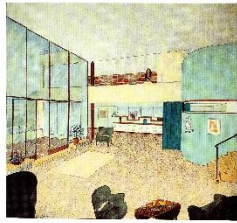
③装飾芸術家協会から UAM へ フランスにおけるモダンデザイン



ロベール・マレ＝ステヴァン
肘掛け椅子
1927 年
装飾美術館、パリ



ル・コルビュジエ、シャルロット・ペリアン、
ピエール・ジャンヌレ
肘掛け椅子（バスキュラン）
1928 年頃 豊田市美術館



ガブリエル・ゲヴレキアン
『Répertoire du goût moderne』1927 年
島根県立石見美術館

④日本におけるモダンデザインの動向 型而工房と新建築工芸学院



フェリーチェ・リックス（上野リチ）
スターバー内装デザイン
1930 年
京都国立近代美術館



型而工房
小椅子
家具の博物館

問合せ先

豊田市美術館 〒471-0034 愛知県豊田市小坂本町 8 丁目 5 番地 1

ウェブサイト: <https://www.museum.toyota.aichi.jp> e-mail: bijutsukan@city.toyota.aichi.jp

● 展覧会に関すること 学芸担当: 千葉、西崎 Tel 0565-34-3131

● 掲載依頼・取材等に関すること 庶務担当: 吉兼（よしかね）、小川 Tel 0565-34-6748

「交歓するモダン 機能と装飾のポリフォニー」 広報用画像について

画像等の資料をご希望の方は以下を記入のうえ、Faxかe-mailでお送りください。

送り先：豊田市美術館 庶務担当 吉兼（よしかね）、小川

Tel 0565-34-6748 Fax 0565-36-5103

e-mail:bijutsukan1@city.toyota.aichi.jp



Toyota
Municipal
Museum
of Art

豊田市美術館

お名前 様 所属

Tel Fax

e-mail 必要な画像等の番号

掲載紙／メディア名 発売、放送予定日 月 日

必要な観覧券枚数（最大5組10名分） 枚 観覧券の送付先

*読者プレゼントのため等、希望する場合のみご記入ください



1



2



3



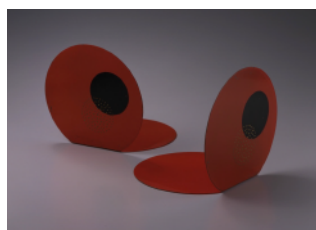
4



5



6



7



8

1. ブルーノ・パウル《ダイニングチェア》1908年 織田コレクション、北海道東川町
2. アトリエ・マルティエヌ／ロジヌ《本物のオー・デ・コロム》1912年頃 海の見える杜美術館
3. フェリーチェ・リックス＝ウエノ《テキスタイル「クレムリン」》1929年 島根県立石見美術館
4. ガブリエル・シャネル《イブニング・ドレス》1927年頃 島根県立石見美術館
5. フランシス・ジュールダン《ランプ》1920-21年 ポール・エリュアール歴史美術館
6. *ソニア・ドローネー《リズム》1915-30年 京都国立近代美術館
7. マリアンネ・ブラント《ブックエンド》1930/32年 宇都宮美術館
8. マルセル・ブロイヤー《クラブチェアB3》1925年 豊田市美術館

資料の使用には以下の点にご注意ください。

- ・作品写真のトリミング、文字のせはご遠慮ください。
- ・*のついた作品は、画像提供の際にお伝えするクレジット表記が必要です。
- ・ご紹介いただく場合は、情報確認のため捺印等をお送りください。